



『若山牧水』（見尾久美恵編著 笠間書院）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-04-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐野, 比呂己 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8692">https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/8692</a>

『若山牧水』

(見尾久美恵編著 笠間書院(コレクション)日本歌人選) 平成二十三年(二〇一一)十二月 全一九頁)

北海道教育大学釧路校准教授

佐野 比呂己

若山牧水の著作は実に多く、歌集十五冊に及び、歌論、紀行文などを収めた全集としては、『牧水全集』全十二巻(改造社昭和五年(一九三〇))、『若山牧水全集』全十三巻(雄鶏社昭和三十四年(一九五九))、『若山牧水全集』全十四巻(増進会出版社 平成五年(一九九三))があり、その全貌については確認するに足る。

生涯に約八七〇〇首もの短歌を残し、旅の歌人、自然歌人として、牧水の歌は多くの人々に現在も愛誦されている。その歌に流れる寂寥と哀愁、調べの美しさは、人々を惹きつけてやまないものがある。手もとにある平成二十四年版中学校国語科教科書(教育出版)にも、次の二首の短歌が掲載されている。

幾山河越えさり行かば寂しさの終てなむ国ぞ今日も旅  
ゆく

白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよ  
ぶ

いづれも人口に膾炙する短歌であり、多くの中高教科書に掲載された作品である。牧水には他にも多数の優れた短歌があり、教科書に掲載された作品も少なくない。

牧水の短歌のアンソロジーとしては、伊藤一彦が編集した『若山牧水歌集』(岩波文庫)岩波書店 平成十六年(二〇〇四)がある。牧水の短歌の中から、特に親しみやすい約一七〇〇首が選ばれ、伊藤による解説が付け加えられており、牧水短歌の世界に触れる意味では最適の書である。

他方、本書は、牧水短歌を見尾久美恵がさらに五十首にし、これに適切な解説を加えた力作である。

見尾は五十首の短歌の解釈を通じて作品個々の主題が明らかになるように努め、作品の流れを通して牧水の生きた軌跡をたどることができるように工夫なされている。

本書の構成は次の通りである。

作品

作品情報

歌人略伝

略年譜

解説 「牧水の歌の調べについて」見尾久美恵

読書案内

附録エッセイ 牧水短歌との出会い 伊藤一彦

「作品」「作品情報」については、一首に見開き二頁をあてており、資料活用の心遣いがうかがえる。加えて作品本文、出典を明示し、見尾による口語訳、鑑賞文、脚注が施されている。



例えば、「幾山河……」では、牧水の「自歌自釈」に触れるとともにブツセの「山のあなた」やボードレルの「旅」などの西洋詩の影響にも言及している。また、「白鳥は……」では、「語釈」において、「白鳥」及び「空の青海のあを」の表記、表現の変遷について記している。初出では「白鳥」に「はくちよう」とルビが附され、「海の青そらのあを」であったという。

評者は、いずれの短歌も国語教室において題材とした体験がある。本書を参照し教材研究に取り組み、授業にのぞんでいれば、学習者に牧水短歌の世界の広がりや深さをより実感させることができたと後悔する次第である。

見尾は、もともとは藤原定家を中心とした和歌研究で知られる研究者である。これまでの自身の和歌研究の知見をいかし近代歌人のアンソロジーを編んだことを高く評価したい。

見尾は「解説」の中で牧水が古典を尊重していたことに触れ、古典を朗誦することを好んだとし、その意味を次のように述べている。

古典を粛々と音読することによって、雑念がはらわれ、精神が集中し、意識が澄んでいく。それとともに、詠歌に対する集中力や想像力が養われていくのである。

国語教室における音読、朗読の意味を再確認させるものである。